２０２０年度　フォリア賞（日本精神神経学会　２０２０年度最優秀論文賞）を受賞しました。

安田医師が筆頭著者である以下の論文が、この度日本精神神経学会の学術雑誌 Psychiatry and Clinical Neurosciences (PCN 誌)の最優秀論文賞を受賞しました。

「今回の受賞を励みとし、患者様の治療に貢献できるよう、今後も努力を怠らず益々精進していきたいと決意を新たに致しました。本研究にご協力いただいた患者様をはじめ、この様な栄誉ある賞をくださった学会、ご指導いただきました共著者の先生方に深く感謝申し上げます。」

受賞論文：

Brain morphological and functional features in cognitive subgroups of schizophrenia. *Yuka Yasuda et al.*, Psychiatry Clin Neurosci. 2020 Mar;74(3):191-203. doi: 10.1111/pcn.12963. Epub 2019 Dec 27.
https://www.jspn.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=49

＜日本語抄録＞

統合失調症の認知サブグループにおける脳形態学的および機能的特徴

目的）

過去の研究は、統合失調症患者の異なる認知サブグループにより、脳の形態が異なることを報告している。統合失調症のこれらの認知サブグループにおける脳構造と機能的コネクティビティーについて検討した。

方法）
我々は、健常コントロール群と、知能の低下によってサブグループに分類した統合失調症患者の認知機能悪化群と認知機能保持群における脳構造を比較した。また、皮質下領域と他の脳領域の間のコネクティビティー解析は、安静時機能的磁気共鳴画像法を用いて行った。

結果）

全脳および全皮質灰白質、右紡錘状回、左下前頭回眼窩部、右三角部、左上側頭回と左島皮質の体積、および両側皮質厚は健常コントロール群と比較して認知機能悪化群では減少していた。両方の統合失調症のサブグループは、健常コントロール群と比較して、左側脳室、右被殻および左淡蒼球の体積が増加しており、両側海馬、左中心前回、右吻側中前頭回、および両上前頭回において体積が減少していた。健常コントロール群と比較して認知機能障害群で、視床と広範囲の脳領域との間の hyperconnectivity が観察され、この hyperconnectivity は認知機能保持群ではあまり明らかではなかった。また、認知機能障害群と認知機能保持群を比較すると、側坐核と上および中前頭回の hyperconnectivity が認められた。

結論）

これらの知見より、統合失調症の認知機能が障害された患者群における、顕著な構造的および機能的脳異常を示していることから、統合失調症の認知機能によるサブグループが、新しい診断および治療戦略のための、脳病態を解明するための有用なバイオタイプである可能性を示唆している。